

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

松本市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除等の取組み
事業費		5,405,940 円 (うち支援金: 4,986,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

アカマツ林は、本市民有林の 16% を占める主要樹種であり、松茸生産や山地災害防止等において重要な役割を果たしている。

このようななか、平成 23 年頃から松くい虫被害が拡大し、被害対策として伐倒駆除、薬剤散布、更新伐、樹幹注入等の各種対策を地域の実情を踏まえ実施している。

松林の枯損に起因する、山地災害の危険性の増大やライフラインの保全確保が課題となっている。

(2) 本事業の目的

松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫の被害防除(伐倒薫蒸等)を図り、被害の拡大防止を図る。

事業内容

- (1) 実施場所 松本市内山林
- (2) 対象者 松林所有者
- (3) 実施方法 被害木の伐倒及び被覆による薬剤薫蒸処理
- (4) 事業目標及び当年度事業量
 - ① 全体計画 (平成 30~34 年度)

年間処理材積 1,000 m³ 以上の被害木の処理を見込む
 - ② 平成 30 年度実績

処理材積 208.4 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

感染源となる松くい虫被害木を除去することで、被害拡大の防止を図ることができる。

(2) 継続性

次年度以降、新たに発生する被害木についても、継続的に処理することで、被害の抑制が見込まれる。

(3) 普及性

松林から被害木がなくなることで、景観を維持し、事業の普及を図る。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

感染源となる松くい虫被害木を除去することで、被害拡大の防止を図ることができた。

(2) 課題

被害先端地を優先して伐倒駆除しているため、すべての被害木を駆除できない状況にある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

予算の拡充も検討し、効果的な被害木の駆除を継続実施する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

塩尻市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の被害防除の取組
事業費		5,616,000円 (うち支援金: 2,027,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

隣接市からの被害南下に伴い、片丘地区市道山麓線沿線を中心に松くい虫被害が年々拡大し、平成 29 年度檜川地区を除く全ての地区に被害が発生した。

隣接市からのカミキリムシ被害侵入経路である山林は特定しているが、被害に対し、伐採処理が追いついていない状況から、本市側の近隣住宅地、山林に被害が拡大している。被害木については、巡視等により即時伐採処理を実施しているが、被害に対し後手の対策となっている。

(2) 本事業の目的

カミキリムシの飛翔距離 2~2.5 km 範囲の松林を伐採し、カミキリムシの侵入と更なる被害拡大を、未然に防止するための緩衝地帯の整備を実施する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 塩尻市大字片丘 (市道山麓線沿い)

(2) 対象者 山林地権者 13 名 実施 塩尻市

(3) 実施方法

地権者の承諾を受け、対象区域内の全アカマツの搬出伐採

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30~34 年度) 平成 30 年度 1.35 ha

② 平成 30 年度実績 平成 30 年度 1.35 ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害の拡大防止

(2) 継続性

市内の他地区においても、隣接市からの被害侵入経路が確認していることから、緩衝帯を整備し全市的な被害拡大防止を図っていく。

(3) 普及性

被害が減少することが実証されることで、アカマツからの樹種転換する森林整備の必要性を認識してもらえる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

対象区域1. 35ha内のアカマツ全伐倒、搬出を実施。

(2) 課題

- ・緩衝帯整備(樹種転換)による近隣の被害防止効果、被害量増減の確認検証
- ・官民共働を図り、広域的森林整備に併せた緩衝帯整備(樹種転換)の推進

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

平成31年度は、被害拡大が甚大な他地区(広丘・洗馬)において、緩衝帯整備を予定。

対象区域 8ha

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	安曇野市
------	------

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除等病 虫害防除の取組 【松くい虫防除対策事業】
事業費		2,330,000円 (うち支援金: 2,060,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当市では、松くい虫被害の拡大により、平成 25 年度には過去最高の 8,817 m³の被害量となった。その後、若干被害量は減ったものの、依然 8,000 m³前後の高水準で被害が続いている。被害は森林エリアだけではなく平地（庭木等）にまで広がっている。

(2) 本事業の目的

個人庭園等の松枯死木の伐倒駆除経費に対して補助金を交付し、市全体の健全な松の保全や被害蔓延防止を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 安曇野市内

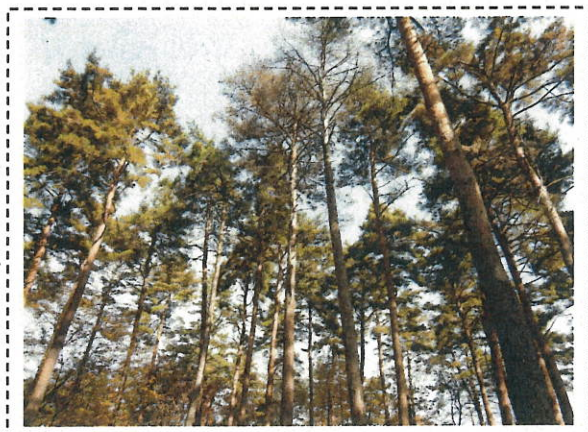
(2) 対象者 市内の松を所有する者

(3) 実施方法 市内の個人庭園松や地域神社林の枯死した松を伐倒処理した経費に対して 2 分の 1 以内の補助金を交付する。実績補助とし実績報告により補助金を交付する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～34 年度） 松枯損木伐倒処理 年間処理本数 500 本を想定

②平成 30 年度実績 全体計画の内本事業対応分として、松枯損木伐倒処理 50 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・松くい虫被害の抑制及び拡大防止

(2) 継続性

- ・松くい虫被害が今後も想定されるため、被害の拡大防止の観点からも継続が必要である。

(3) 普及性

- ・被害の蔓延防止と、倒木等による二次被害の防止及び景観の維持を図ることで事業効果を伝える。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松枯損木の処理をすることで、松くい虫被害の蔓延防止と倒木による二次被害の防止が図られ、市民生活の安心・安全を確保することができた。

(2) 課題

松くい虫被害の拡大により、松枯損木の処理の増加が見込まれ、市民への補助制度の見直しも必要になっている。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害の拡大により、今後も事業の継続が必要なことから当面は実施をする。

□事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

□事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	安曇野市
------	------

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	木質バイオマス利用を促進する取組 【ペレットストーブ導入補助事業】
事業費 200,000 円 (うち支援金: 150,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題
地球温暖化や化石燃料の枯渇問題により、再生可能エネルギーの利用が求められているなか、森林整備に伴う木材を木質バイオマス燃料として利用することも期待されている。

(2) 本事業の目的
信州産木質ペレット燃料を使用することで、地球温暖化の抑制と森林整備及び県産材の利用促進を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 安曇野市内

(2) 対象者 市民等

(3) 実施方法 市民等がペレットストーブを購入設置した場合に補助金を交付する。
ペレットストーブ本体価格の 2 分の 1 以内を補助 (上限 100,000 円)
※ 信州産ペレット消費拡大事業に採択されないもの

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度) ペレットストーブの設置件数 25 台/年

②平成 30 年度実績 ペレットストーブの設置件数、年 25 台のうち、本事業により 3 台



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

木質バイオマスを燃料として使用することで、地球温暖化の抑制と森林整備及び県産材の利用の促進が図られる。

(2) 継続性

地球温暖化や化石燃料の枯渇問題により、木質バイオマスエネルギーの利用が求められており、市としてもペレットストーブの導入補助への推進を今後もしていく方針である。

(3) 普及性

ペレットストーブを使うことで、地球温暖化の抑制と県産材の利用促進が図れることを、広報紙やイベントなどで広く周知をする。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

ペレットストーブの導入により、地球温暖化の抑制と森林整備及び県産材の利用の促進が図られた。

(2) 課題

市内でのペレットストーブの設置導入数が増え、関心のある市民も多くなっているものの、県産材の利用促進の理解があまりされていない。

また、ペレット燃料の消費が増えても、ペレット燃料の価格には反映されていない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も設置導入者に対して、本事業を活用して補助金を交付することで、地球温暖化防止と県産材の利用促進につなげる。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	安曇野市
------	------

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	地域住民との協働による森林作り活動の推進 【里山再生計画推進事業】
事業費		364,000円 (うち支援金: 350,000円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題
里山は、人々が長い年月にわたり利用し続けたことによって、成り立ってきました。しかし、私たちの生活スタイルの変化などに伴い、里山を利用することが少なくなりました。その結果、里山には様々な問題（松枯れ被害、有害鳥獣害など）が生じています。

(2) 本事業の目的
里山再生計画では、人々が今の生活スタイルにあった里山を利用する取組として、里山の資源を利用、里山での活動推進、松枯れ・鳥獣被害の減少の 3 つを掲げ、具体的な 5 つのプロジェクトにより、現在の里山でおきている課題解決につなげていきます。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 安曇野市内
(2) 対象者 安曇野市内で活動する市民、事業者等
(3) 実施方法 具体的な 5 つのプロジェクトにより里山での取組を実施する。
(4) 事業目標及び当年度事業量
①全体計画 (平成 30～34 年度)
安曇野市里山再生計画 (平成 27～31 年度)
平成 32 年度以降については、第 2 期計画を策定予定
②平成 30 年度実績 具体的な 5 つのプロジェクトにより取組を実施



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

事業により、里山を身近に感じる機会を増やし、里山への関心を高め、里山で活動する地域住民等が増える。

(2) 継続性

平成27年3月に策定された「安曇野市里山再生計画」のなかの具体的な取組みであり、安曇野市として計画を継続的に推進している。

(3) 普及性

本事業は、市民等と行う協働の取組として実施されており、各プロジェクトの取組により市民等へ浸透していく。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状

さとぷろ。学校を8講開催し、8名の受講生を迎えることができた。

里山で活動する知識や技術を習得することができ、今後の里山での活動につなげることができた。

(2) 課題

さとぷろ。学校を受講した市民等が、今後も安曇野市の里山で継続して活動ができるような仕組みを作ることが必要である。

また、運営側のスタッフを確保することが、今後の活動するうえで重要な課題となっている。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

里山を活用する事が、現在の里山再生につながることから、多くの市民等に、里山に関心をもって、里山で活動できる取組を実施していく。

□事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

□事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

安曇野市

No.	事業項目	事業名
4	森林を支える豊かな地域づくり	地域住民との協働による森林作り活動の推進 【SAKURA プロジェクト】
事業費		97,000 円 (うち支援金: 94,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

桜の名所として知られる光城山は、山林所有者や地元区、市民活動団体の保全活動により、豊かな自然環境が守り育てられてきました。しかし、近年では桜の老木化、外来植物の侵入による周辺の自然環境の変化により、森林としての機能が低下しています。

(2) 本事業の目的

魅力ある地域の資源である「光城山」を後世に引継ぐため、桜の植樹活動を通じた「市民と行政の協働の推進」「市の一体感の醸成」を目的とします。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 安曇野市 豊科 光 光城山
- (2) 対象者 山林所有者、地元区民、一般市民
- (3) 実施方法 桜の植樹活動
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

桜植栽本数 500 本 (H26～H29 まで植栽実績 500 本)

②平成 30 年度実績 桜の植樹 70 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

桜の植樹活動を通じた「市民と行政の協働の推進」「市の一体感の醸成」が生まれ、植樹による健全な森林機能の発揮が期待される。

(2) 継続性

市民と行政の協働による「光城山1000人SAKUAプロジェクト」により実施されており、今後も継続的に植樹や管理が行われていく。

(3) 普及性

光城山は、市民等の憩いの場として、また健康増進の場として多くの人が訪れる場所であり、市民との協働事業として行われる本事業は、多くの方に目に見える形となる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

「光城山1000人SAKUAプロジェクト」が11月24日に実施され、90名の参加者により、桜苗木70本が植栽された。

桜の植樹を通じ、健全な森林づくりが図られ、市民との協働による一体感が生まれた。

(2) 課題

桜の管理を継続的に維持するため、地域を巻き込んだ市民との協働事業の継続的な実施

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

市民と行政の協働により実施されており、今後も継続的に植樹や管理を行っていく。

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	麻績村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害木伐倒駆除事業
事業費		515,160 円 (うち支援金: 501,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当村では、近年松くい虫被害が急速に拡大しており被害量は年々増加しており予断を許さない状況である。本年度も特別防除、伐倒駆除に加え更新伐を組み合わせて対策を講じて、現在実施しているところである。

(2) 本事業の目的

春の伐倒駆除で被害を最小限に抑えているところであるが、夏から秋にかけての秋枯れ被害木の伐倒駆除を徹底することで、さらに被害量を抑えることを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 麻績村一円

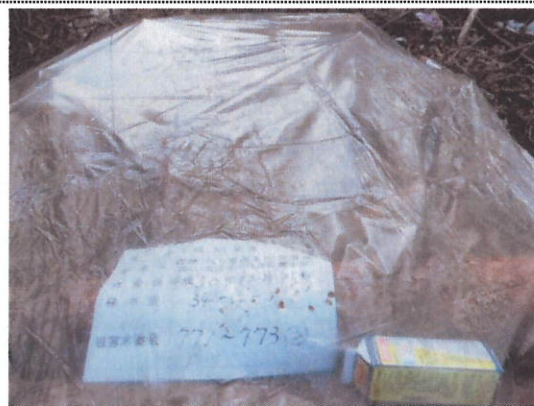
(2) 対象者 村内の山林所有者

(3) 実施方法 松くい虫の被害の拡大防止を図るためのアカマツ枯損木の伐倒駆除処理を実施。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度) 100 m³の伐倒駆除処理 (毎年約 20 m³)

②平成 30 年度実績 20 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

春駆除は6月中旬までに処理してしまわないといけない時間的制約があるため、秋枯れ枯損木の早期伐倒駆除により、翌年の春駆除の事業量を抑え、被害拡大を最小限に食い止めることができる。

(2) 継続性

麻績村における松くい虫被害は急激な温暖化等の影響により、比較的被害を受けにくいとされている標高が高い山地においても被害木が確認されるようになってきた。本事業を継続することにより被害の少ないエリアの山林を守り、被害の拡大・防止を図ることができる。また、道路などライフライン近くで被害を受けた枯損木を早期に伐倒駆除処理することで、倒木事故を未然に防ぐことができ、住民の安全を守ることができる。

(3) 普及性

夏から秋にかけて山林は深緑であるため、松くい虫の枯損木が非常によく目立っている状況にある。伐倒駆除を実施することにより、枯損木が無くなった健全な山林を確認することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

今回の事業で松くい虫被害が比較的に進んでいない地区において実施できたことにより、来年度の被害が最小限に抑えられたと思われる。また、今回実施した箇所は主要道路に隣接しており、将来的な倒木等の想定される被害を回避できたと考えられる。今後も引き続き伐倒駆除を実施していき、被害拡大防止に努めていきたい。

(2) 課題

伐倒駆除、薬剤空中散布を毎年実施し被害拡大防止を図っているが、今年度は異常な猛暑によりマツノマダラカミキリの活動期間が例年より長く、今まで被害あまり被害が見受けられなかった箇所においても被害が確認されてきている。今後は被害があまり受けていない箇所等、優先順位を決めていく中で計画的且つ効果的に事業を進めていく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も被害をあまり受けていない箇所や将来的にライフライン等に被害が及びそうな箇所を優先に事業を実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

生坂村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくりに資する取組	松くい虫枯損木処理事業
事業費 1,542,681 円 (うち支援金: 631,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

生坂村では、マツノ材線虫による。松枯れの被害が拡大しており、松林健全化推進事業等により、伐倒薫蒸、空中散布により被害の拡大防止に取り組んでいるが、処理が間に合わず完全に枯れ切ったアカマツも多い、特に道路の沿線の枯損木については、倒木の危険があり、早急な対策が望まれているが、松林健全化推進事業の補助対象外である。

(2) 本事業の目的

補助対象とならない、危険度の高い松の枯損木の伐倒処理を行うことで、住民の安全安心を図る。

事業内容

(1) 実施場所 東筑摩郡生坂村宇留賀区国道際

(2) 対象者 森林所有者

(3) 実施方法 枯損木については、伐採業者に委託し、伐採・玉切り整理を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30～34 年度) 枯損木伐倒処理 50m³

② 平成 30 年度実績 枯損木伐倒処理 28m³ (28 本)



事業効果

(1) 事業実施の効果

枯損木が倒れる前に、伐倒処理をすることで、村民の安全につながる。

(2) 継続性

生坂村には魚骨状となった、枯損木が多数存在しており、今後計画的に処理していきたい。

(3) 普及性

生活道路など、ライフラインに直結した、枯損木を処理することで、先述のとおり村民の安全が、確保されるほか、景観が改善される。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

マツ枯損木を適時に処理することにより、倒木による自己の防止および森林景観の保護図れる。

(2) 課題

松くい虫被害が村内全域に広がる中、枯損木も村内に多数あり、処理が追いつかない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

ライフライン沿いの枯損木が多数あるので、来年度以降も継続する。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

山形村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の取組み (カラマツ枯損木処理事業)
事業費		307,800 円 (うち支援金: 300,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

村有林内で、カラマツヤツバキクイムシの増殖が原因と思われるカラマツの枯損被害が発生したため、放置した場合、この木が新たな増殖源となり、周囲に被害が拡大する恐れがあった。

(2) 本事業の目的

被害木の伐倒・搬出により、カラマツヤツバキクイムシの増殖を防ぎ、健全なカラマツ林の維持を図る。

事業内容

(1) 実施場所

山形村清水高原

(2) 対象者

森林所有者

(3) 実施方法

カラマツヤツバキクイムシに感染したカラマツ及び増殖源となる倒木の伐倒・搬出を行い、搬出困難なものについては、現場で剥皮処理を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

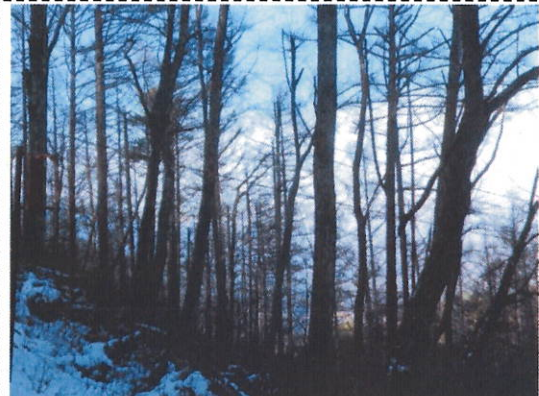
①全体計画 (平成 30～34 年度)

平成 30 年度 被害木 5 本伐倒、うち 4 本搬出・1 本剥皮

平成 31 年度以降 被害の発生状況により適宜伐倒を行う。

②平成 30 年度計画

平成 30 年度 被害木 5 本伐倒、うち 4 本搬出・1 本剥皮



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

カラマツヤツバキクイムシの増殖源が除かれることで、健全なカラマツ林の維持につながった。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

早期の防除により、健全なカラマツ林が将来にわたり維持される。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

カラマツ枯れについては地域住民の関心も高く、枯損木が撤去されることで、森林が適正に維持管理されていることが周知された。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

クイムシの増殖源となるカラマツが除かれ、目標は達成できた。

(2) 課題

今回は伐倒対象木が5本と少数であったことから、早急に伐倒することができた。

被害が拡大すると対応が困難になる恐れがあるので、今後も早期発見、早期伐倒に努める必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

村有林内で被害が確認されたカラマツの伐倒は完了したが、全体計画のとおり、被害が発生した場合には適切に伐倒駆除を行う。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

山形村

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	地域住民との協働による森林作り活動の支援 (林道整備事業)
事業費	399,600 円	(うち支援金： 239,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

林道大池線は、春の山菜や秋のキノコの季節をはじめとして、地域住民等の入山ルートとして活用されているが、未舗装路であるため、雨が降ると洗堀等により通行困難となることが多かった。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載

林道の改修整備を行い、通行しやすくすることで安全を確保し、より森林を利活用しやすくする。

事業内容

(1) 実施場所

山形村林道大池線

(2) 対象者

山林所有者その他林道通行者

(3) 実施方法

木製路面水切り設置等による林道改修

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

平成 30 年度 林道改修工事

平成 31 年度以降 不陸整備等適切な維持管理を行う



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

通行者の安全が確保され、より森林を利用しやすくなった。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

事業後も適切な維持管理を行うことで、継続的に良好な通行状態が保たれる。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

対象の林道は通行に制限がなく、誰でも通行可能であるので、整備効果が伝わりやすい。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

路面水切りの設置により、林道の洗堀が軽減された。

(2) 課題

未舗装路であるため、設置した水切が土砂に埋没する恐れがある。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

全体計画のとおり、林道不陸整備時に堆積土を取り除くなど、適切な維持管理を行う。

□事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

□事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	朝日村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	県産材間伐材利用促進事業 (小学校机、椅子)
事業費		1,814,400 円 (うち支援金: 651,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

山林を村の土地全体の 87% 所有している朝日村

戦後カラマツが植林され、60 年が経ち活用の時期を迎えています。

しかし、村内では製材所はなくなり、林業従事者も皆無の状態でカラマツの利活用が求められています。

(2) 本事業の目的

村産材カラマツで公共施設の備品を作り活用することで、直接触れてもらい、木材の有効利用を伝え関心を持ってもらう。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 朝日小学校

(2) 対象者 全村民、来校者

(3) 実施方法

村内において木工作家が多くいるため、デザインと見積りを頂き一番適したものを採用し、作成し配備していく

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30~34 年度)

平成 30 年度 朝日小学校 机椅子 24 脚 (大 14、特大 10)

平成 31 年度 朝日村役場新庁舎来客用机 5 脚

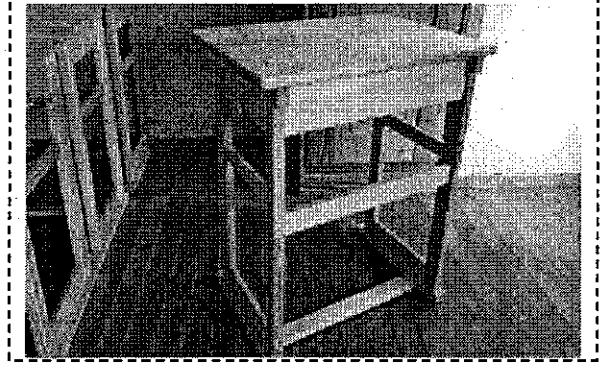
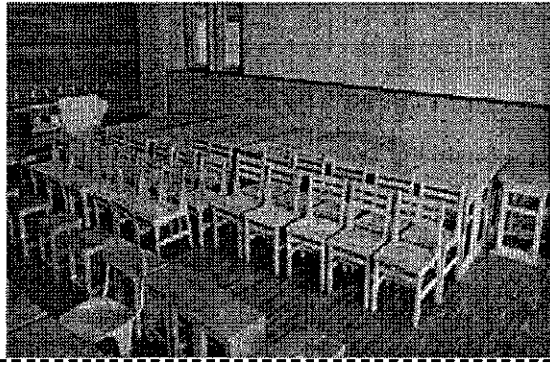
平成 32 年度 朝日村役場新庁舎来客用椅子 5 脚

平成 33 年度 表彰用額縁 100 セット

平成 34 年度

② 平成 30 年度実績

朝日小学校机、椅子を現在カラマツで配備してありますが、現代の児童の発達が大きく、ひとまわり大きいサイズ (大 14、特大 10) が必要となり製作しました。



事業効果

(1) 事業実施の効果

直接触れて頂くことでカラマツ材の良さを知って頂き地域材の利用促進を図る

(2) 継続性

毎年公共施設へ色々なパターンの木製家具を配備することでカラマツ材の良さとクラフト作家の技術の高さを毎年感じる事が出来る。

(3) 普及性

公共施設へ木製家具を置くことで、村の中で不特定多数の方にカラマツの良さ、クラフト作家の技術の高さを感じてもらえる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

小学生や父母を中心に、木製家具のよさをわかってもらえた。

(2) 課題

今後木製家具の生産拡大や受注に結びつくか。

(3) 今後の取組状況

事業を現行どおり継続する。

今後も、朝日村の木材を利用して家具などを作成し、村内のクラフト作家の技術の高さを感じてもらおう。

事業内容を見直して継続する。

事業を継続しない。

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

筑北村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫防除伐倒事業
事業費 5,522,310 円 (うち支援金: 784,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当村では、旧本城村・旧坂北村地域に松くい虫被害が集中しており、国の松林健全化推進事業を実施している。

(2) 本事業の目的

国の補助金制度の対象外となっている旧坂井村地域を中心において発生した松くい虫被害木を処理し、拡大を防止する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 旧坂井村地域を主とする森林

(2) 対象者 筑北村森林所有者

(3) 実施方法 被害木の伐倒及び被覆による薬剤薫蒸処理

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30～34 年度) 年間処理材積 200m³ 以上の被害木の処理を見込む

② 平成 30 年度実績 処理材積 204.53m³

着手前

完了後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害の拡大防止および抑制により、健全な松林の維持育成
松くい虫被害による枯損木の倒木等による、地域住民等の危険を防止する。

(2) 継続性

松くい虫の被害は、今後も予想されることから継続して実施

(3) 普及性

松くい虫被害木を処理し、景観を実施し、事業の普及を図る

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

春先の伐倒薫蒸処理により、旧坂井村地域においては一定の成果をあげている。

(2) 課題

伐倒薫蒸後も、しばらくして被害が発生するため、毎年村単で対策が必要

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

来年度から、旧坂井村の地域は松林健全化推進事業(国庫補助)の対象区域になるよう、変更予定であるので、魚骨状のアカマツの処理などの事業を検討中

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)